

2 0 t h A n n i v e r s a r y

川崎市アメリカンフットボール協会設立20年(1992-2012) ご挨拶

川崎市アメリカンフットボール協会 理事長 平野恭雄

1992年5月、「川崎市アメリカンフットボール協会」は、川崎市における「普及・発展」、「市内青少年のスポーツ需要への対応」を趣意に、日本アメリカンフットボール協会のバックアップを受けて設立されました。本年5月をもちまして20年の歳月を迎えることとなりましたのも、ひとえにアメリカンフットボール関係者の皆様、川崎市、川崎球場、フットボールファン等、多くのご支援、応援、ご協力を頂きました皆様のお陰と、厚く御礼を申し上げます。

設立当初より法政二高、法政大学、専修大学、富士通、NECと、川崎市内に拠点を置く、いずれ劣らぬアメリカンフットボール界の強豪チームが加盟しての発足でした。現在は、関東学院大学、聖マリアンナ医科大学、クラブオックス川崎AFC、一般財団法人・日本フラッグフットボール協会東日本支部が新たに加盟し、本協会の活動の範囲が広がっております。

本協会の活動拠点となった川崎球場は、1992年にプロ野球球団が他地区に移転した後、アメリカンフットボールの公式会場として本格的に参入。アメリカンフットボールの関東地区における中心的な役割を担う球場となりました。

本協会も、設立元年の1992年5月に川崎球場で開催された「第1回川崎ボウル」を主催。豪雨と雷鳴の下、熱戦を展開した専修大学対慶應義塾大学、法政大学対NECの試合が話題となりました。その後、本協会の主たる事業となっている「春の川崎シリーズ」は、秋季リーグ戦では味わえない他地区（北海道・東北・東海・関西など）の大学を招いた大会として、毎年多くのフットボールファンが楽しみに観戦に訪れています。

1998年からは、普及活動の一環として「中学生体験アメリカンフットボール教室」を開催。真新しいヘルメット、防具、ユニホームに身を包んだ中学生たちが川崎球場に集結し、アメリカンフットボールの楽しさ、面白さを初体験しています。興味を持ってもらう場ができたことで、その後の中学生アメリカンフットボール躍進の基礎を築き、普及と底辺拡大に大きく貢献しました。

2000年3月には老朽化した川崎球場の観客席が解体さ

れ、一時期は等々力球場（中原区）との併用になりました。この年より「STICK BOWL」（関東高校選抜選手権・2001年～2011年）で関東地区の高等学校主催の大会を後援しております。また、一時中断していた「川崎カレッジボウル」（関東大学オールスター戦・2005年～2008年）を復活し、主管として関東学生アメリカンフットボール連盟と共催で再スタートいたしました。

2006年には、小中学生を中心に、川崎市内全域にわたり普及活動に取り組むフラッグフットボールが本協会に加盟し、普及、底辺拡大の共有によって、新たな活動を展開しております。

2007年、日本のアメリカンフットボール史を変える「第3回アメリカンフットボール・ワールドカップ2007川崎大会」が地元・川崎市で開催されました。本協会は、川崎市とより緊密な関係を構築。川崎球場には仮設ながら5000席の観客席と、更衣室など関連施設が新たに設置され、アメリカンフットボールの専用球技場が誕生しました。

2008年には、小中学生を対象としたアメリカンフットボール普及活動である「タイタンズ計画」が奏功し、法政大学の下部組織「ジュニア・リトルマホークス」がチーム創設、翌2009年には専修大学の下部組織「ジュニア・リトルグリーンマシーン」がチーム創設と、川崎市内に小中の2チームが誕生。新たな普及活動として新聞紙上で話題となりました。

2006年には川崎市体育協会（現・川崎市スポーツ協会）に加盟し、川崎市内のスポーツ団体として名実ともに認められることとなりました。

上記のように、本協会は試行錯誤しながらも、発足当初の趣旨を信念に持って活動してまいりました。そして、この設立20年を節目に初心に立ち返り、地域団体として川崎市と緊密な関係を保ち、「川崎市内のアメリカンフットボール普及、発展、青少年育成」に向けて、草の根活動に使命感を持って邁進してまいります。

今後とも、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。次第でございます。



kawasaki-football.com